

兵主神社本殿（寛永20年（1643））



- 名称：兵主神社本殿【ひょうずじんじゃほんでん】
- 員数：1棟
- 構造形式：桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、向拝一間、檜皮葺
【附 棟札3枚、板札3枚、長押金具4点、軒付板蛇腹板1組(23枚)、
獅子口瓦 北面獅子口瓦（8点1組）南面獅子口瓦（8点1組）】
- 所有者：宗教法人 兵主神社
- 所在地：野洲市五条
- 時代：寛永20年（1643）

•建築の概要

兵主神社は、野洲川下流の野洲市五条に所在する。境内（けいだい）は東面し、広大で豊かな境内森の中に各社殿（しゃでん）が配置される。

現在の兵主神社本殿は棟札（むなふだ）や旧長押（なげし）金具より寛永20年（1643）に建てられたことが分かる。

当本殿は、県内で数少ない切妻造（きりづまづくり）本殿であるとともに、一間社としては全国でも最大規模に属し、県内では他に類例を見ない建造物である。内部は身舎（もや）梁間（はりま）中央前寄りに幣軸（へいじく）構開戸を設け、内外陣（ないげじん）に二分する。長押や建具周りには銕（かざり）金具が取り付けられる。四面（しめん）の内法長押（うちのりなげし）上と向拝（こうはい）に彫刻墓股（かえるまた）を納める。また良材を用い、技術的にも意匠的にも優れた質の高い建築として貴重である。保存状態も良く、中世から近世への過渡期的な技法が確認できる点も重要である。

本殿の建立および修理は谷川（長谷川）姓の大工が手掛けており、野洲市、守山市、近江八幡市内で活動していた地元大工の代表作品として挙げられる。本県における江戸時代の堂宮大工の様相を知りうる点でも価値が高い。

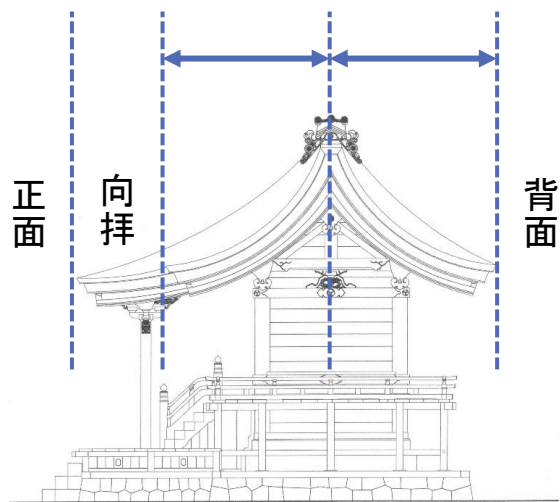
1. 切妻造と流造

切妻造

兵主神社本殿



正面側と背面側の屋根の流れが等しい

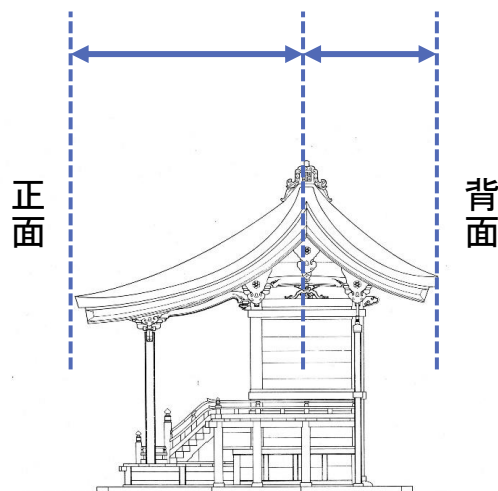


流造

(参考) 甲良神社権殿



正面側の流れの方が長い



滋賀県内における近世以前の神社本殿の構造形式

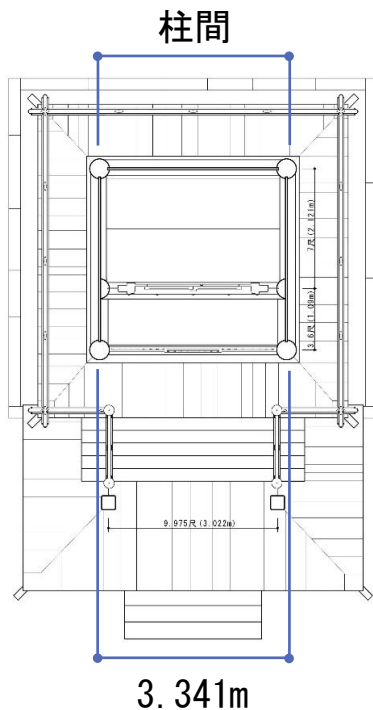
12棟

うち一間社は兵主神社本殿一棟のみ

現存するものの8割

▶ 兵主神社本殿は滋賀県内における一間社切妻造の数少ない事例である

2. 全国でも最大級の一間社



兵主神社本殿平面図

柱と柱との間を「柱間（はしらま）」という。建物の規模の表記に用いる。兵主神社本殿は柱間が一つなので「一間社（いっけんしゃ）」という。

兵主神社本殿の柱間は3.341m

→県内の一間社の多くが柱間が2m前後であり、3mを超えるものは3棟のみ。

- ・全国の重要文化財の一間社流造および切妻造本殿135棟のうち正面柱間が2メートル未満の本殿が74棟、2m以上3m未満の本殿が52棟ある一方で、3m以上の本殿は9棟のみで珍しい。

- ・これらと比較しても兵主神社本殿は3～4番目の大きさ。

▶ 兵主神社本殿は全国でも最大級の一間社である

3. 技術的にも意匠的にも優れた質の高い建築



正面格狭間（こうざま）彫刻



側面墓股（かえるまた）彫刻



手挟（たばさみ）彫刻

▶ 兵主神社本殿は控えめではあるが要所に優れた装飾を持つ